

2018年第1週から第52週(*)までにNESID に報告された百日咳患者のまとめ

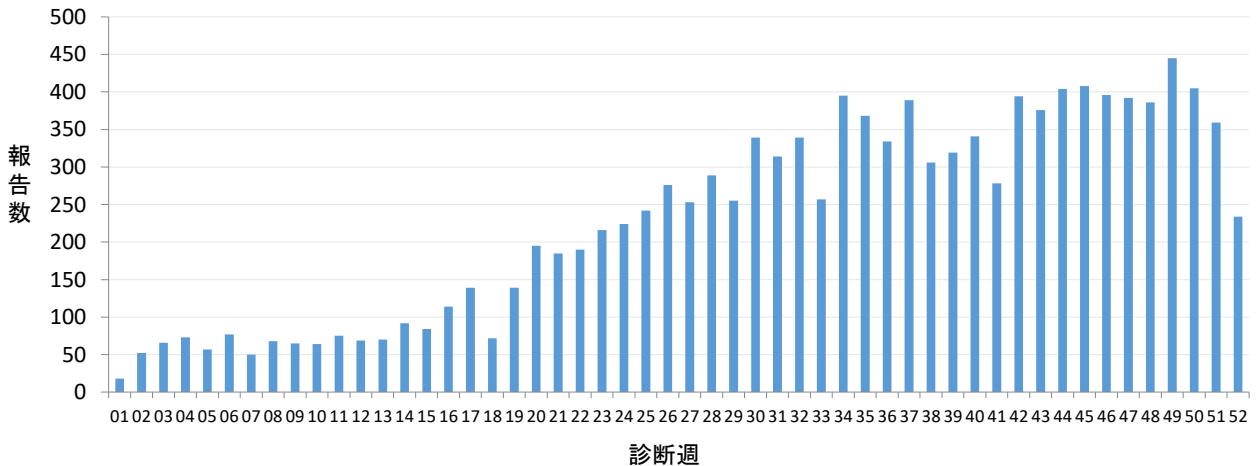
2018年第52週週報データ集計時点

国立感染症研究所

(*)第1週～第52週(2018年1月1日～12月30日)

1

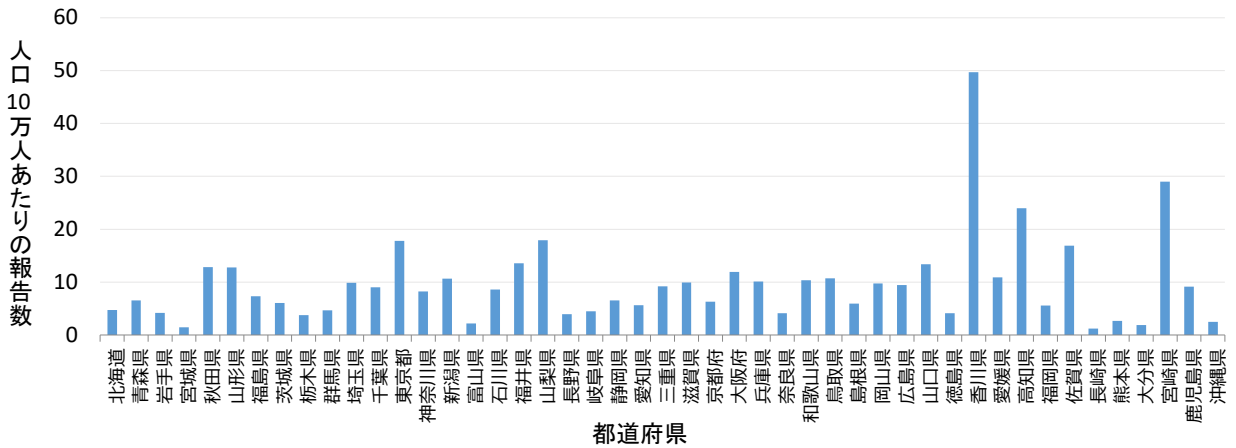
診断週別全百日咳患者報告数 (2018年第1週～第52週)(n=11,946)



週の平均報告数:230例(範囲:17~445例)

2

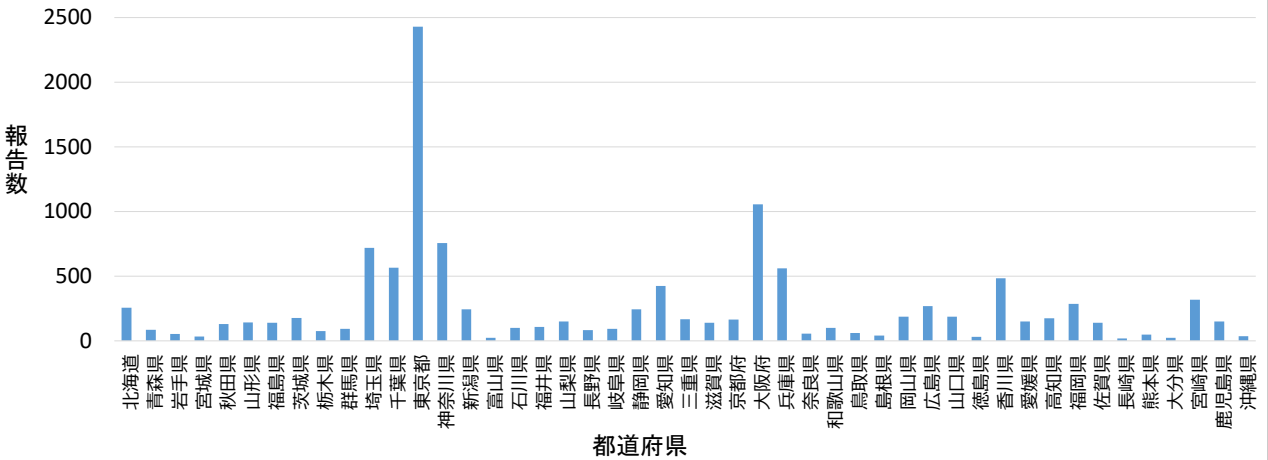
人口10万人あたりの都道府県別百日咳 報告患者数(2018年第1週～第52週)(n=11,946)



総務省統計局 2016年10月1日現在人口に基づき算出

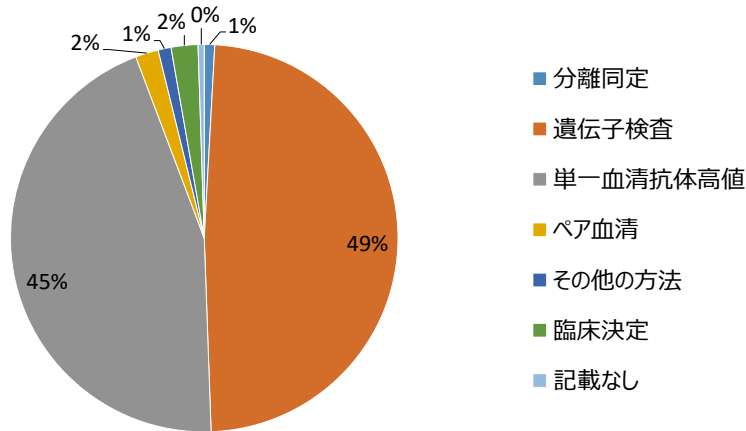
3

都道府県別百日咳報告患者数 (2018年第1週～第52週)(n=11,946)



4

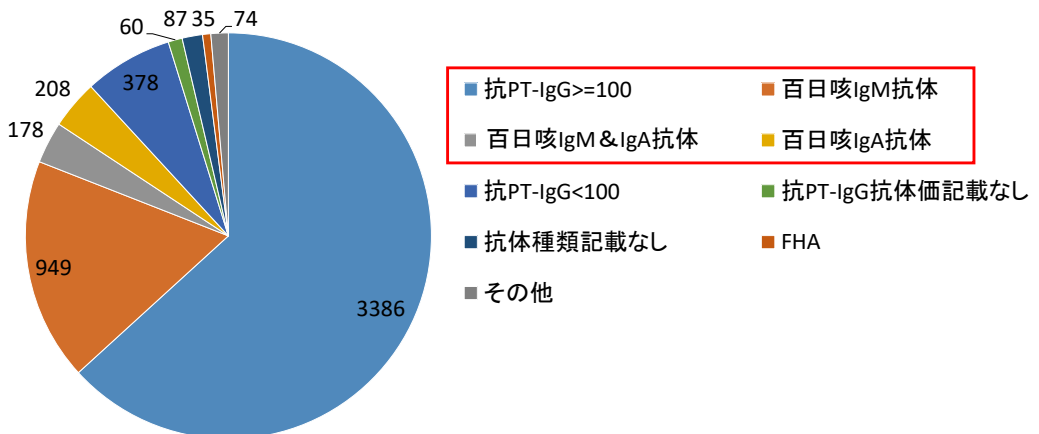
百日咳報告患者の診断方法 (2018年第1週～第52週)(n=11,946)



複数の検査法の記載がある場合、分離同定→遺伝子検査→ペア血清→単一血清抗体価高値の順に一つの診断法を決定
例) 分離同定と単一血清抗体価高値の記載がある場合には、分離同定を診断法とする

5

「単一血清の抗体価高値」を診断根拠に届けられた 百日咳報告患者(n=5,355)の検査結果内訳



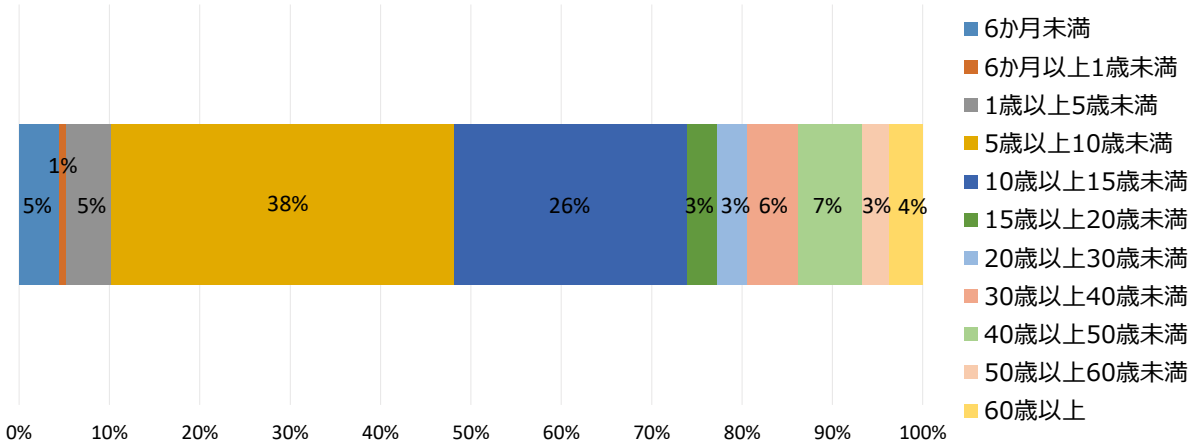
報告の約88%が届出ガイドライン*の診断基準を満たしていた (赤い四角の枠内)

(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

6

届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者症例^(*) (n=11,190)の各年齢群の割合 (2018年第1週～第52週)

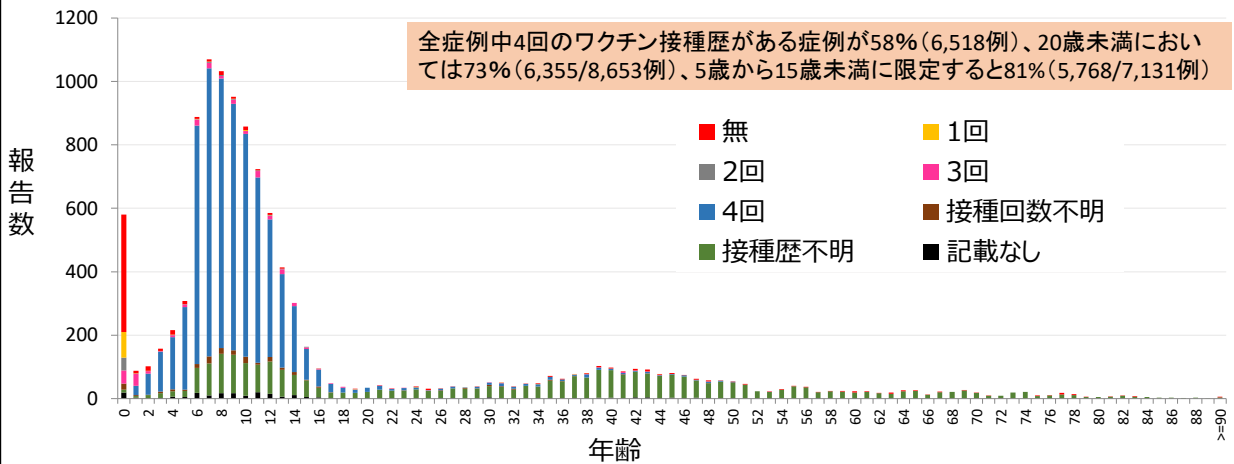


(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版) に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

7

届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者症例^(*) (n=11,190)の年齢分布 (2018年第1週～第52週)

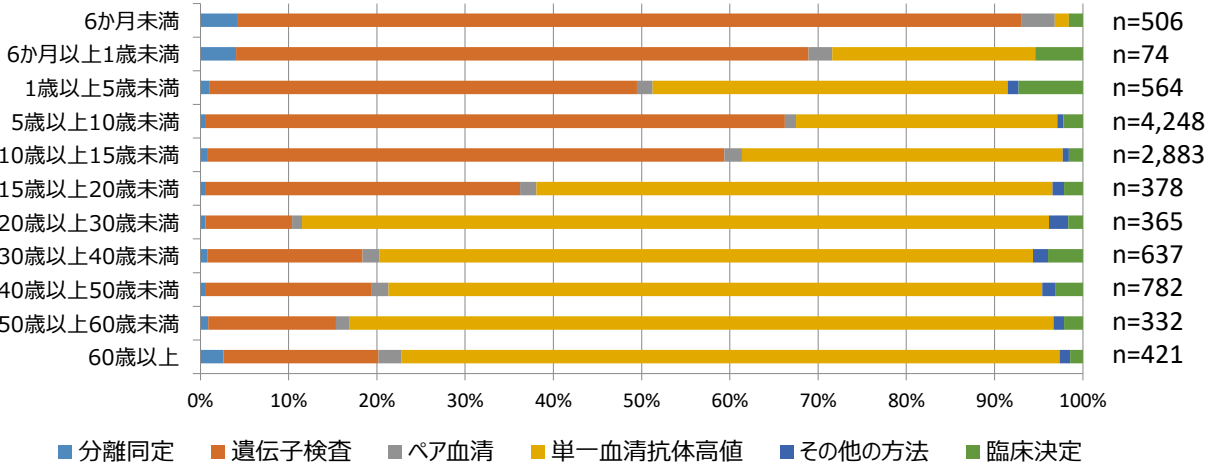


(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版) に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

8

届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳症例(*)の年齢群別百日咳診断検査法の割合 (2018年第1週～第52週)(n=11,190)

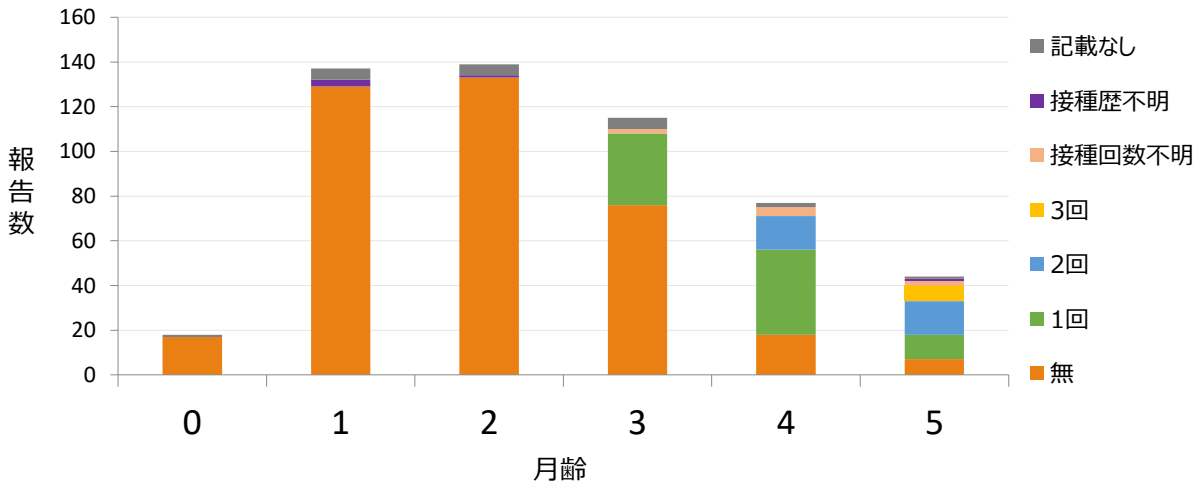


(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版) に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

9

6か月未満症例の月齢別報告数(ワクチン接種歴別) (2018第1週～第52週) (n=530)



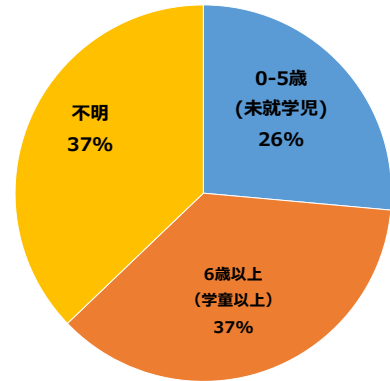
10

6か月未満症例の感染経路 (2018第1週～第52週) (n=530)

推定感染経路 (重複あり)	N	%
母親	72	14
父親	88	17
同胞	222	42
祖父母	31	6
その他	21	4
不明	161	30

その他の内訳：いとこ(11)、叔母(6)、叔父、
同胞が通う保育園の保育士、曾祖母、
他児の母親、同胞の友人

同胞の年齢 (重複あり※)



※推定感染経路の同胞のうち、38例が兄弟複数
(計79名)に症状あり

11

6か月未満症例の臨床症状・臨床経過 (2018第1週～第52週) (n=530)

●NESID記載の症状

症状 (重複あり)	N	%
無呼吸発作	124	23
チアノーゼ	161	30
肺炎	41	8
痙攣	1	<1
脳症	0	0

12

今回のまとめ

◆全数報告が開始され1年が経過した時点での百日咳報告患者についてまとめた

- 全報告百日咳患者数 11,946例
- 届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者数 11,190例
 - うち4回のDPTワクチン接種歴有の割合 58% (5～15歳未満に限定すると81%)
 - 入院例 344例 (うち290例が6か月未満児)

◆6か月未満、7歳をピークとした5～15歳、30～40代に患者集積あり

◆小児ではLAMP法による診断の割合が高いが、成人では単一血清抗体価による診断の割合が高い

13

【参考】百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(初版)

- 感染研のホームページをご覧ください

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

- 届出ガイドラインは保健所に届け出る基準を示しており、臨床診断を目的としたガイドラインではない
⇒統一した基準で全国の百日咳の疫学情報を収集する目的
- 届出ガイドラインを満たさない百日咳症例(臨床診断例)もあり得る(治療や感染拡大防止策は同じ)

14